



校長 指崎 邦久

朝夕がめっきり涼しくなり、早足で秋がやってきていることを実感しています。9月24日から始まった仮設校舎での学校生活に、1・3・5年生も慣れてきているようです。休み時間には友達と話す元気な声が聞こえ、授業では真剣に考える姿が見られます。

心を一つにかがやけ窪っ子

先日行いました、学習発表会にはたくさんのみなさんに参観いただきました。徒歩での来校に協力いただいたこと、体育館でのスムーズな入れ替えに協力いただいたことなどありがとうございます。ご家族のみなさんの約束事を大切に、互いに尊重し合う人柄に触れた思いでいます。ご協力のおかげで学習発表会を円滑に進めることができました。ありがとうございました。

学習発表会では、子供たちの頑張る姿をご覧いただけたと思います。恥ずかしくて声を出せなかったけれども大きな声で話せるようになった子供、練習を重ね身に付けたことを笑顔で表現した子供、どきどきしながら自分の発表の番には力いっぱい頑張れた子供、どの子供も練習の成果を発揮できたようでした。



4年生の発表



5年生の発表

これは、子供の頑張りを支えた大人の働きがあったからだと考えています。学年の特色が生きるように構成を考え、一人一人に合わせて粘り強く指導した担任や、子供の思いも優しく抱きしめ温かく背中を押してくださったご家庭の力がうまくかみ合ったからです。子供、学校、家庭、それぞれが力を発揮したことが子供の活躍や成長につながったと考えています。学校では、この機会を大切にして、今後も子供たちが自信をもって取り組んだり、粘り強く取り組んだりできるように指導していきます。引き続き、ご理解とご協力をお願いします。



1年生の発表



2年生の発表



3年生の発表



6年生の発表

楽しかった、ふれあい祭り

学習発表会の午後から、ふれあい祭りが行われました。育友会のみなさんが、子供たちに楽しい思いをさせてやろうという思いのもと、当日に至るまでに綿密な計画を立て、打ち合わせを重ねてくださいました。たくさんの方の協働のもと当日を迎え、子供たちは縦割りグループごとクイズを解いたり、ゲームをしたりして楽しみました。上級生が下級生を気遣う姿や、子供と大人が一緒に笑っている姿がみられました。子供たちにとって、後から思い返すことができる思い出の一つになったと思います。

企画・準備いただいたみなさんに改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。



ハインリッヒの法則

この法則は、1930年代のアメリカのハインリッヒ氏が労働災害事故の発生確率の調査をもとに提唱したものです。「1件の重大な事故の背景には、29件の軽微な事故があり、軽微な事故の背景には300件の事故寸前の異常な状態（ヒヤリとする場面）がある」という内容です。この法則は、よく学校の安全管理や生徒指導にも引用されます。

生徒指導に例えると —安全・安心のために—

「1件の重大な生徒指導を要する事案の背景には、29件の軽微な生徒指導を要する案件があり、その背景には300件の異常な状態がある」と考えることができます。異常な状態（約束を守らない等）を繰り返すことで少しぐらいという気持ちが育ち、規範意識や危機意識が徐々に薄れ、トラブルや事故、やがて大きな事故等につながる恐れがあります。私たち大人ができることは、子供が事故等に巻き込まれることなく、安全・安心な生活を送ることができるように環境を整えてやることだと考えています。学校では、子供とともに目標を定め、その目標に向かうための行動をすすめながら、よくないことはよくないと指導していきます。ご家庭でも、子供の環境に配慮ください。

幸せに向かうように捉えると

小さな幸せを積み重ねると大きな幸せにつながっていくと考えられます。幸せは自分で見つけたり作ったりすることができます。そのために、次の5つのことをおすすめします。

- ①今、できることを一生懸命にがんばる。(夢中になれます)
- ②決めたことを最後までやり遂げる。(充実感を味わえます)
- ③天気がよい、好きな学習があるなど周りのよいことに目を向ける。(気分が軽くなります)
- ④元気のよい行動をする。(元気になります)
- ⑤なりたい自分を持ち、そうなるような行動をする。(なりたい自分に近づきます)

毎日、小さな幸せを積み重ねていきましょう。